



マナウス日本人学校 学校だより

マナウス

2020年(令和2年)10月30日 第3号 文責:校長 柏木 廣喜

学校教育目標

- ・自ら進んで学びとる子ども (知)
- ・礼儀正しく思いやりのある子ども (徳)
- ・心と体を鍛える子ども (体)



「学校に子どもたちの声が戻ってきました！」



マスク、外、間隔、少人数・・・10月13日(火)、今までとは違った形の始業式でした。このような状況下だからこそと思い、子どもたちの健やかな成長を願って鯉のぼりも掲げました。

思い起こせば5月4日(月)、コロナ禍のまっただ中ではありましたが、「1年生にとっての大切な節目」という想いで、小粥PTA会長ご臨席のもと、入学式を実施しました。

あれから約半年、今日までに9名の仲間が本帰国しました。

K.Sさん K.Hさん K.Yさん A.Yさん
N.Sさん Y.Kさん S.Yさん H.Yさん
T.Kさん

また9名の仲間が一時帰国中です。

R.Sさん N.Gさん T.Mさん M.Gさん
W.Yさん A.Nさん S.Oさん
M.Iさん S.Iさん

少々寂しい2学期のスタートでしたが、全日コース、文化コースの子どもたちは元気に学校生活を送っています。少人数になり委員会の数も減りましたが、その分一人一人には多くのチャンスがまわってきます。たくさんの経験を積み重ねてほしいと思います。



プール開きの前日！突然珍客が！

始業式の前に「大々的なプール清掃」を行いました。全ての水を抜き、タイルを丁寧に掃除しました。そのきれいになったプールで最初に泳いだのは・・・やはり地元の住人、「イグアナ君」でした。



水中に潜むイグアナ



履物をそろえる＝心をそろえる

3月に帰国した小野寺裕美先生のご主人である「小野寺慶さん」に、学校で使う下駄箱を作っていただきました。今まで使う子どもたちがいませんでしたが、待ちに待ったそのときが来ました。制作にあたってはPTAの皆さんの協力もいただきました。ありがとうございました。

写真は理恵さんと栄治さんの下駄箱です。上段には上履き、下段には外履きが入ります。上段に置かれた二人の上履きは、きちんとそろえられています。

日本では昔から、「履物をそろえる」ことと「心をそろえる」ことは極めて関連が深いとして扱われてきました。また日本の学校では、学校の下駄箱に置かれた靴も教材として、単なる礼儀作法のみならず、「自分の心を整えること」も指導しています。上履き校舎になったことを契機に、「心をそろえる」ことも今まで以上に大切にしていきます。



床をみがく＝心をみがく

昨年度まで、全日コースの児童生徒は、教室の清掃を週2回（火曜、木曜）、特別教室の清掃を週1回（月曜）行っていました。同じく文化コースの児童生徒は、教室の清掃を週1回（金曜）行っていました。

今年度は全員で分担を決め、教室や特別教室、そして体育館の清掃を行っています。慣れないのでなかなかうまくいきませんが、みんな一生懸命取り組んでいます。

ブラジルの学校では、児童生徒が校舎を清掃することはあまりないかと思います。本校では昨年度も、「児童生徒が自分たちの学舎を清掃する」ことに取り組んできましたが、今年度はさらに力を入れ、清掃活動を行っていこうと思っています。

私は日本で、清掃を大切にしている学校に勤務したことがあります。キャッチフレーズは、「床をみがいて心をみがく」でした。今年度、下駄箱を設置して「上履き仕様の校舎」になったことをきっかけに、清掃活動にも積極的に取り組んでいきたいと思っています。

やっと、新しい先生方が着任します！

コロナウイルスの影響で、本来4月に着任するはずだった2名の教員の派遣が遅れていましたが、この度文部科学省から連絡があり、11月に派遣となることが決定しました。

来月着任されるお二人の先生は、小野田泰志教諭、朝倉晴美教諭です。よろしくお願いたします。